

第3次町田市環境マスタープラン一部改定（案）概要版

④計画の一部改定の背景

本市では 2022 年 3 月に「第 3 次町田市環境マスタープラン」を策定し、環境に関する取組を推進してきました。現行計画では、基本目標の 1 つとして「エネルギーを賢く利用し、気候変動の影響にも対応するまち」を掲げています。この基本目標達成のための成果指標として、市内の温室効果ガス排出量を 2013 年度比で 2030 年度までに約 33%削減することとしていました。また、市内の再生可能エネルギー導入量を 2019 年度比で 2030 年度までに約 29%増の 48,313kW とすることとしていました。

現行計画の策定後、市では温室効果ガス排出量の削減に向け、「再生可能エネルギー等の利用拡大」の取組として町田市バイオエネルギーセンターで発電した電力を活用するなど様々な取組を行ってきました。その結果、2022 年度の市内の再生可能エネルギー導入量は 51,302kW となり、目標値を上回っている状況です。

「ゼロカーボンシティまちだ」実現のため、「第 3 次町田市環境マスタープラン」が掲げる 5 つの基本目標（①地球温暖化対策、②自然環境・生物多様性の保全、③ごみの減量・資源化、④生活環境の保全、⑤参加・協働）のうち、特に①地球温暖化対策に関連する内容の取組を強化する一部改定を行います。

④計画の主な改定内容

■成果指標の改定

今回の一部改定において大きく見直したのは、基本目標 1（地球温暖化対策）における成果指標の目標値です。特に、市内の温室効果ガス排出量については、地球温暖化対策に関連する取組を強化し 51%の削減とする目標値に大幅な引き上げを行います。これに併せて、温室効果ガス排出量の削減に関連するエネルギー消費量や再生可能エネルギー導入量、EV・FCV・PHV の登録割合についても成果指標の見直しを行います。

＜成果指標の改定内容＞

施策	成果指標	基準値 (年度)	現状値 (年度)	目標値 (目標年度)	
				改定前	改定後
基本目標 1：エネルギーを賢く利用し、気候変動の影響にも対応するまち					
[1]省エネルギーの普及・導入を進めます	市内のエネルギー消費量 (TJ)	13,953TJ (2013 年度)	12,381TJ (2021 年度) 約 11%削減	9,365TJ (2030 年度) 約 33%削減	8,666TJ (2030 年度) 約 38%削減
	家庭のエネルギー消費量 (世帯数当たり) (GJ/世帯)	32.8GJ/世帯 (2013 年度)	31.1GJ/世帯 (2021 年度) 約 5%削減	22.8GJ/世帯 (2030 年度) 約 31%削減	22.5GJ/世帯 (2030 年度) 約 31%削減
	事業者のエネルギー消費量 (延床面積当たり) (GJ/m ²)	0.84GJ/m ² (2013 年度)	0.67GJ/m ² (2021 年度) 約 20%削減	0.57GJ/m ² (2030 年度) 約 32%削減	0.46GJ/m ² (2030 年度) 約 45%削減
[2]再生可能エネルギーの普及・導入を進めます	市内の再生可能エネルギー導入量 (累計) (kW)	37,378kW (2019 年度)	51,302kW (2022 年度) 約 37%増加	48,313kW (2030 年度) 約 29%増加	112,134kW (2030 年度) 約 200%増加
[3]将来的なゼロカーボンに向けたまちづくりを進めます	市内の温室効果ガス排出量 (千 t-CO ₂)	1,489 千 t-CO ₂ (2013 年度)	1,275 千 t-CO ₂ (2021 年度) 約 14%削減	998 千 t-CO ₂ (2030 年度) 約 33%削減	727 千 t-CO ₂ (2030 年度) 約 51%削減
	市内乗用車の登録台数に占める EV、FCV、PHV※ ¹ の割合 (%) ※ ²	0.76% (2019 年度)	1.42% (2022 年度)	4.57% (2030 年度)	9.8% (2030 年度)
[4]身近な気候変動の影響への適応を進めます	気候変動の影響に備えている市民の割合 (%)	18.5% (2022 年度)	19.6% (2023 年度)	28.5% (2030 年度)	変更なし

※1 EV、FCV 同様に環境性能の高い PHV も追加しました。

※2 改定前は普通乗用車のみを対象としていましたが、今回の改定では EV や PHV の製品動向を踏まえ小型乗用車と軽乗用車も対象に追加しました。そのため、基準値も改定前の数値 (0.99%) より小さくなっています。

■取組内容の改定

市民・事業者をリードする立場として、まず市が公共施設において省エネ機器や再生可能エネルギーの積極的な導入を進めます。また、容器包装プラスチックの収集・資源化等、「ゼロカーボンシティまちだ」の実現に向けた取組を推進します。

＜取組の主な改定内容＞

施策	市の取組	主な取組内容
基本目標 1：エネルギーを賢く利用し、気候変動の影響にも対応するまち		
[1]省エネルギーの普及・導入を進めます	③公共施設の率先的な省エネ機器の導入を推進します	● 建て替え等を行う学校における ZEB Ready の実現 ● ごみの資源化施設への省エネ機器の導入推進
[2]再生可能エネルギーの普及・導入を進めます	③公共施設における再生可能エネルギーの導入を推進します	● 建て替え等を行う学校への太陽光発電機器の導入 ● 市民、事業者向け太陽光発電機器導入の支援 ● 再生可能エネルギー電力への切替 (すべての公共施設)
[3]将来的なゼロカーボンに向けたまちづくりを進めます	①次世代自動車の普及啓発等を図ります	● EV ごみ収集車の導入
	④自家用自動車の利用を控え、公共交通利用を進めます	● 公共交通利用促進を含む地域公共交通計画の策定
	⑦町田の農産物の地産地消を推進します	● 中学校全員給食での町田農産物の利用促進
[4]身近な気候変動の影響への適応を進めます	①市民生活や健康への影響に関する対策を推進します	● 官民連携による熱中症対策イベントの実施 ● 熱中症特別警報情報、クーリングシェルターの周知
	②風水害、土砂災害への対策を推進します	● 浸透入孔等の設置 ● まちだ防災カレッジを活用した情報発信
基本目標 3：徹底したごみ減量、資源化を進めるまち		
[2]環境に配慮した資源化施設を整備し、適正かつ安全な処理に努めます	②収集体制を整備します	● 市全域における容器包装プラスチックの分別収集の実施

■重点プロジェクトの改定

地球温暖化対策の改定内容や市施策の進捗状況を踏まえ、重点プロジェクトの見直しを行います。「ゼロカーボンシティまちだ」を目指すうえで、特に再生可能エネルギーの導入及び利用拡大が重要です。そこで、市民・事業者における取組に加え、市が主体となり公共施設における再生可能エネルギーの導入及び利用を推進する取組を実施します。また、環境配慮の観点から、新たな重点プロジェクトとして、市全域における容器包装プラスチックの分別収集を実施します。

＜重点プロジェクトの主な改定内容＞

重点プロジェクト名	改定内容
【拡充】重点プロジェクト 1 再生可能エネルギー等の利用拡大	再生可能エネルギーの導入拡大を強化し、公共施設を対象としたものと市民・事業者を対象としたものに分割します。 1-1 公共施設における再生可能エネルギー等の利用拡大 (国・都の補助金を活用した公共施設への太陽光発電機器の導入など) 1-2 市民、事業者における再生可能エネルギー等の利用拡大 (市民、事業者向け太陽光発電機器導入の支援など)
【見直し】重点プロジェクト 4 地産地消の推進	事業者撤退によって、「受け取りボックス」を活用した事業の継続ができなくなりました。事業内容を見直し、子育て世帯を中心に、市内 5 か所にある直売所へ継続して来ていただけるようにします。
【新規】重点プロジェクト 6 プラスチックの資源化の推進	2 0 2 6 年度から市全域での容器包装プラスチックの分別収集・資源化を開始します。

望ましい環境像を実現するため、5つの基本目標を環境の大綱として位置づけ、その下に施策を設定しています。また、計画全体をリードしていく「重点プロジェクト」を5つ設定しています。

各施策には関連する成果指標を設定し進捗を確認します。

望ましい環境像	基本目標	施策	重点プロジェクト	成果指標			包含する分野別個別計画
				指標名	基準値	目標値	
みんなで将来に受け継ぐ水とみどり豊かなまちだ	1 エネルギーを賢く利用し、気候変動の影響にも対応するまち 関連するSDGsのゴール 	[1] 省エネルギーの普及・導入を進めます [2] 再生可能エネルギーの普及・導入を進めます [3] 将来的なゼロカーボンに向けたまちづくりを進めます [4] 身近な気候変動の影響への適応を進めます	重点プロジェクト1 「再生可能エネルギー等の利用拡大」 重点プロジェクト2 「次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用」 重点プロジェクト4 「地産地消の推進」	●市内のエネルギー消費量 ●家庭のエネルギー消費量（世帯数当たり） ●事業者のエネルギー消費量（延床面積当たり） ●市内の再生可能エネルギー導入量（累計） ●市内の温室効果ガス排出量 ●市内乗用車の登録台数に占めるEV※3、FCV※4の割合 ●気候変動の影響に備えている市民の割合	13,953TJ※1（2013年度） 32.8GJ※2/世帯（2013年度） 0.84GJ/㎡（2013年度） 37,378kW（2019年度） 1,489千t-CO ₂ （2013年度） 0.99%（2019年度） 18.5%（2022年度）	9,365TJ（2030年度）約33%削減 22.8GJ/世帯（2030年度）約31%削減 0.57GJ/㎡（2030年度）約32%削減 48,313kW（2030年度）約29%増加 998千t-CO ₂ （2030年度）約33%削減 4.57%（2030年度） 28.5%（2030年度）	地球温暖化対策実行計画（区域施策編）[1]～[3] 地域気候変動適応計画[4]
	2 源流から里山、都市が織りなすいのち輝くまち 関連するSDGsのゴール 	[1] 生きものの多様性を守ります [2] 水とみどりを守り活用します [3] 歴史的・文化的環境を守ります	重点プロジェクト3 「里山環境の活用と保全」	●市民協働による生きもの調査への参加者数（延べ人数） ●生きものに関心のある市民の割合 ●みどりとのふれあいに満足している市民の割合 ●水辺とのふれあいに満足している市民の割合 ●みどり率 ●歴史・文化とのふれあいに満足している市民の割合	4,340人（2020年度） 70%（2020年度） 52%（2020年度） 48%（2020年度） 45.8%（2018年度） 29%（2020年度）	10,000人（2031年度） 80%（2031年度） 62%（2031年度） 58%（2031年度） 現状維持（2031年度） 39%（2031年度）	生物多様性地域戦略[1]～[3]
	3 徹底したごみ減量、資源化を進めるまち 関連するSDGsのゴール 	[1] ごみの減量を進めます [2] 環境に配慮した資源化施設を整備し、適正かつ安全な処理に努めます [3] 社会的課題への対応を強化します	重点プロジェクト5 「フードドライブによる食品ロスの削減」	●1人1日当たりのごみ排出量 ●総資源化率 ●ごみの焼却による温室効果ガス排出量	768g/人日（2019年度） 31%（2019年度） 約34,000t-CO ₂ （2019年度）	714g/人日（2030年度） 40%（2030年度） 約24,000t-CO ₂ （2030年度）	整合を図る分野別個別計画 第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画[1]～[3]
	4 安全で快適な暮らしを実現するまち 関連するSDGsのゴール 	[1] 誰もが快適に安心して暮らせる環境を守ります [2] 美しく快適なまちを維持します		●大気環境、水環境、騒音に関する環境基準の達成割合 ●居住地の周辺環境(大気、水質、騒音など)に満足している市民の割合 ●まち並みや景観に満足している市民の割合	78%（2019年度） 67%（2020年度） 43%（2020年度）	現状維持（2031年度） 77%（2031年度） 53%（2031年度）	
	5 環境について、みんなで学び、協働を進めるまち 関連するSDGsのゴール 	[1] さまざまなエコ市民の育成と協働のネットワーク構築を進めます [2] 誰にとってもわかりやすい環境情報を発信します		●環境に配慮した行動を行っている市民の割合 ●エコ宣言事業者数 ●SNS等のフォロワー数	39%（2022年度） 93店・事業所（2020年度） 1,138（2020年度）	49%（2031年度） 120店・事業所（2031年度） 10,000（2031年度）	

※1 TJ：テラ（Tera）・ジュール（Joule）の略号です。テラは10の12乗を意味し、ジュールはエネルギー量の単位を表します。
 ※2 GJ：ギガ（Giga）・ジュール（Joule）の略号です。ギガは10の9乗を意味します。
 ※3 EV：電気自動車（EV）は電池に電気を充電し、その電気を使い、モーターを回して走る自動車のことです。
 ※4 FCV：燃料電池自動車（FCV）は、燃料電池で水素と酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーを使って、モーターを回して走る自動車のことです。